

## 平成24年度 第60回大分県高等学校総合体育大会<戦況>

[大分県ハンドボール協会広報部]

■H24. 6. 2 (土) 大会初日■

男子Aパートは、優勝候補の「雄城台」と復活をねらう「国際情報」、そこに「鶴崎工業」を含めた3チーム！ Bパートは、新人戦 準優勝の新鋭「大分高校」とパート1位をねらう「大分舞鶴」に「情報科学」を加えた3チームで熱戦が繰り広げられた。

雄城台は、昨年からレギュラーを経験した選手が多く、頭一つ抜け出している所に国際情報・鶴崎工業がどこまで接戦出来るかが見所！ Bパートは、流れを引き込んだチームが抜け出しそうで気が抜けないところである。

Aパートの戦いは、前後半を走りきった雄城台が危なげなく1位通過した。しかし、国際情報戦の後半は、逆に走られる所が見られ14-14と同点で終わっている。速い攻めに対するディフェンスのむろさが見えた時間帯があった様に見えた。鶴崎工業も強豪2校を相手に善戦したが、走力とディフェンスの差が出て一矢報いる事は出来なかった。

男子Bパートの試合を総称すると、点差を感じさせない内容の好ゲームが繰り広げられた。パートの1試合目は、大分高校 対 情報科学、前半を終わって10-10と同点で折り返した。後半は、大分高校のディフェンスが機能しはじめ情報科学のオフenseに対して圧力をかけ続けたため、9点差が付いてしまい大分高校が勝利した。しかし、舞鶴戦では前半を2点ビハインドで折り返すと言った展開でどのチームが勝ってもおかしくない様に思えた。最終的には、大分高校が1位通過し惜しくも舞鶴が2位となった。情報科学も善戦したが、後半のスタミナを保てれば勝てた様に感じられた。

大会会場は、午後から観客が多くなり盛り上がった。特に、「雄城台 対 国際情報」「大分高校 対 舞鶴」は拮抗した戦いと成った為、会場中が一喜一憂した素晴らしい初日だった。

女子aパートでは、春の全国選抜3位の大分鶴崎に対して、情報科学、大分舞鶴が挑む構図となった。

大分舞鶴はオフense力が思うように発揮できなかったものの、足を使ったディフェンスを展開、ひたむきなプレーで健闘はしたものの、グループリーグ敗退となった。

情報科学は、GKを中心として素早いディフェンスでよく守り、出足のよい速攻で確実に得点を重ね、またセットオフenseでも多彩な攻撃を繰り広げた。

大分鶴崎も情報科学戦では前半リードされる展開となったが、体力勝負となってきた終盤に逆転、そのまま逃げ切った。

結果、大分鶴崎、情報科学がグループリーグを突破した。

女子bパートは、県新人戦準優勝の大分に対して、大分東、大分雄城台がどこまで食らいつくかが見所。

大分雄城台は、フリースローからのトリックプレーや、ポストを起点としたフォーメーションプレーを絡めて、粘り強い攻撃を随所に展開した。

大分東は攻守ともに大きくバランスを崩すことはなく、仲間のミスをフォローするなど、チームワークの良さを発揮していた。

大分高校も高いポジションからのディフェンスで相手のミスを誘い、ターンオーバーを確実に得点、点差を少しずつ開いて勝利をものにした。

結果、大分、大分東が決勝トーナメントに駒を進めた。

■ H24. 6. 3 (日) 大会2日目 ■

○女子準決勝 大分鶴崎—大分東

大分東は多彩なセットプレー、フォーメーションを駆使して大分鶴崎ディフェンスに挑んだが、大分鶴崎の激しいディフェンスをなかなか破ることができない。

大分鶴崎は、オフェンスで最後の詰めに精彩を欠く場面が多かったものの、激しいディフェンスからの速攻で得点を重ね、着実に点差を開いて決勝に駒を進めた。

○女子準決勝 大分—情報科学

序盤、双方硬さが見られたが、大分がコートを広く使ったオフェンスを展開、情報科学もロング、ミドルなど多彩な攻撃でくらくらくも、前半12—6の大分リードで折り返す。

後半は、互いに互いに持ち味を出した試合となったが、前半の点差を活かした大分が決勝に駒を進めた。

○男子準決勝 大分雄城台—大分舞鶴

互いに走力が持ち味のチームだが、前半から大分雄城台が脚力を活かしディフェンス、オフェンスともうまくかみ合い、着実に点差を広げる展開に。大分舞鶴は後半からオールコートマンツーマン仕掛け、最後まであきらめない姿勢で会場を魅了した。地力に勝る大分雄城台が決勝に進出した。

○男子準決勝 大分—国際情報

ともに運動量が豊富なチーム同士の対決となったが、試合序盤から互いに激しいディフェンスでシュートチャンスを与えず、11—11の同点で前半を終える。

後半に入り、互いに速攻の応酬となったが、大分が2点差でリードしている中盤、国際情報は一人退場しているにもかかわらず大分に追いつき、終盤までシーソーゲームが続く。

残り7秒、同点の場面で国際情報がタイムアウトをとるが、直後のオフェンスでシュートチャンスが取れず19—19で延長戦に突入する。

延長戦に入っても互いに攻撃の手を休めることなく、点を奪い合う展開。後半のこり20秒で大分が23—23の同点に追いつき、7mTとなった。

激闘の結果、7mTを制した国際情報が27—24で勝利した。

■ H 2 4 . 6 . 4 (月) 大会3日目 ■

大会3日目は、男女の決勝戦が行われた。

まずは、女子決勝戦！ 18年連続インターハイ出場をねらう大分鶴崎！

鶴崎は、本年3月に開催された全国高等学校選抜大会で3位の入賞を果たし充実した本年度のスタートを切っている。対する大分高校は、2年生が中心のチーム！ 昨年の大分県新人戦では、鶴崎に1点差で苦杯しており、リベンジをかけた戦いとなった。

力量は互角との前評判どおり、試合開始から得点が動かず拮抗した両チームの激闘が展開された。3：20秒 大分高校7番神田のシュートが1点目となった。

その後4－1と大分高校リードに成ったところで、鶴崎がタイムを要求！ 戦術の立て直しを図ると3連続得点で4－4の同点に持ち込む。その後逆転し5－8と3点リードすると今度は、大分高校がタイムを要求！ タイムがとけるとこちらも4連取して勝ち越しに成功する。前半は、10－9の大分高校1点リードで終えた。

全国大会を思わせるスピーディーで白熱したゲーム展開に、会場中が釘付けと成った。

後半スタートから大分高校が一気に流れを掴み、速いパス回しからミドル・ロング・両サイド・カットインと多彩にシュートを決め11分で6点差がついてしまう。

鶴崎は、持ち味の速攻が出ず、セットオフenseでは相手との間合いが近い為に、パス回しのリズムを閉ざされシュートまで行けない状況が続いた。

終始ゲームを優位に進めた大分高校が、23－16で鶴崎の18連覇を阻止した。

素晴らしいゲームを見せてくれた両チームに賞賛の拍手を送りたい。

男子決勝戦は、優勝候補の雄城台 対 復活をねらう大分国際情報！

両チームは、予選リーグAパートで対戦しており30－19で雄城台が勝利している。

しかし、国際情報は後半を14－14と同点である事や準決勝で大分高校を激闘の末7mTで勝利している事などから気が抜けない1戦となった。

ゲームがスタートすると、試合巧者な雄城台が走力を生かしたスピーディーな展開で得点を量産していく。国際情報は、シュートを放つも枠の外やキーパーにセーブされるなど得点が出来ない。雄城台は、相手のミスを実に速い乱パスで30mを駆け抜けシュートを放つ展開が多く見られ前半を終えて21－8の大差とした。

後半は、国際情報が一死報いようとあきらめない心で力強くシュートを狙った。

最終的には、後半を16－13としてほぼ互角の展開を繰り広げた。

しかし、全体的には予選リーグの戦いと変わりなく37－21の16点差で雄城台が3年連続の優勝を飾った。雄城台は、今大会終始安定した力強いハンドボールを展開していた。